

【 参加者 】

小学3年生以下（各地域連盟会員）

各チームは会員以外の子供たちの参加を呼びかけも積極的に行う。

その際の会場への移動などは、呼びかけたチームが責任をもって帯同すること。

【 服装 】

会員は各チームのユニホーム着用。

会員以外の子供たちは運動しやすい服装の上、必ず帽子着用のこと。

【 持ち物 】

会員はバット・グローブ等の通常使用している野球道具。

会員以外の子供たちには、呼びかけたチームが必ず野球道具を貸与すること。

【 試合 】

試合は5回戦30分とする。

30分を過ぎて次のイニングには入らない。

チェンジ（攻守交代）は、3アウトになるか、攻撃側が打者一巡するまでとする。

守備は9人とするが、打撃はベンチ入り全員が行うものとする。

運営は各チームが2試合ずつ行えるようにする。

【 指導者 】

1チームにつき最低2名以上の指導者をつけるようにする。

指導者はベンチ入り全員が守備につけるように配慮して起用する。

【 チーム分け 】

3年生以下で

各地域連盟内ごとに調整して、1チームが10人～15人になるようする。

単独チームでの参加を希望する場合は、所属連盟に申し出る。

【 審判 】

審判は相互の当該で行う二審制か、連盟役員を球審とし塁審を当該で行う三審制とする。

【 仮タイムスケジュール 】

9時・・・選手集合

9時15分・・・開会式

10時・・・第1試合

10時40分・・・第2試合

11時20分・・・第3試合

12時・・・第4試合

12時40分・・・閉会式

テニールボール競技規則 (抄)

1. 施設と用具

① 施設・使用球・使用バット・対象者

場所	使用球	塁間	外野フェンスまでの距離	対象	グラブ
屋内	インドテニールボール	5~10m	無	幼児 小学生低学年	不要
	11・12インチ・テニールボール	10~14m	40m以上	中学生・高校生以上女子	使用可
屋外	9インチ・テニールボール	16m	50m以上	小学生低学年	使用可
	11インチ・テニールボール	16m	50m以上	小学生	使用可
	12インチ・テニールボール	16m	50m以上	小学生・高学年以上女子	使用可
屋外 野球場 その他	9インチ・テニールボール (アメリカIBAとISF ルール適用の場合)	18.29m	60m以上	4~8歳(7月31日 までに誕生したもの)	使用可

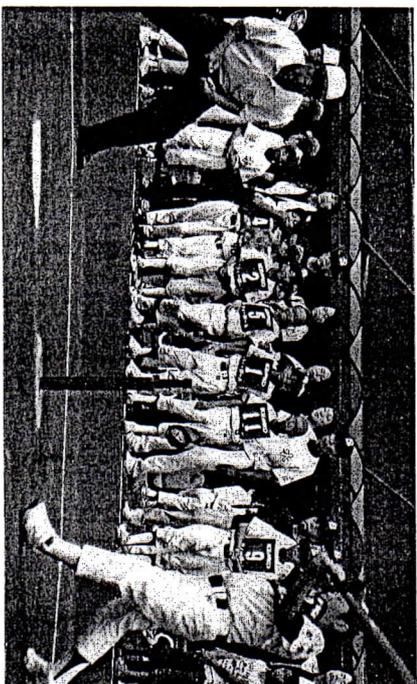
注 使用バットに関しては、ボール販売元のテニールボール用バットの使用を義務付ける

② バッターズサークル

本塁プレートと角を中心として、半径3メートルの円を描く。打者はこのサークル内で打撃を行う。

③ バッテイングテニール

バッテイングテニールは、本塁プレートの後方50cm以上1m以内の間に置く。



2. 競技者

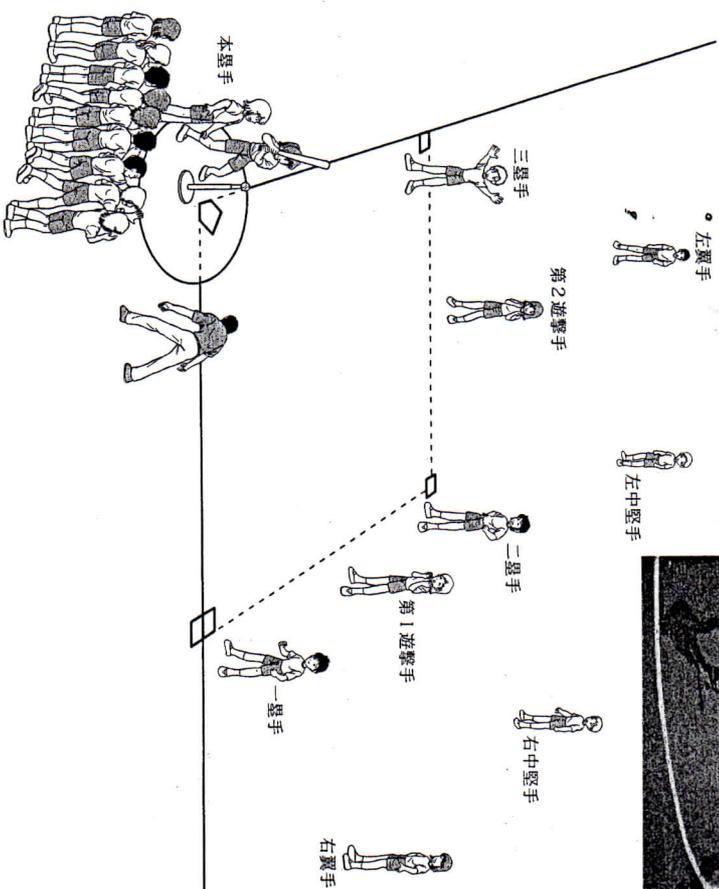
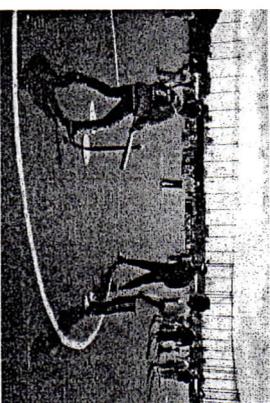
① 競技者の数

競技者は10名~15名とする。両チームの選手の数は同数でなければならない。

② 競技者の名称と守備位置

守備者は10名である。10名の守備者は、本塁手(ホームベースマン)と、1塁手(ファーストベースマン)、2塁手(セカンドベースマン)、3塁手(サードベースマン)、第1遊撃手(ファーストシヨーストツツア)、第2遊撃手(セカンドシヨーストツツア)の5人の内野手と、4人の外野手に分かれる。外野手は、左翼手(レフトフィールドアー)、左中堅手(レフトセンターフィールドアー)、右中堅手(ライトセンターフィールドアー)、右翼手(ライトフィールドアー)に分かれる。

他の選手はエキストラヒッター(打つだけの選手)となる。



3. 本塁手規程

本塁手は打者が打撃を完了するまでは、バッターズサークルの外にいななければならない。

4. 打撃規程

- 打者は審判が「プレイ」と宣告した後、バッティングテイクに載せたボールを打つ。
- 打撃時の軸足の移動は1歩までとする。2歩以上動かししたときは、ワンストライクが加えられる。ワンストライク後からこれを行ったときは、打者は三振である。
- 打者がボールを打たないで、テイクだけを打ったときは、空振りでワンストライクが加えられる。ワンストライクからこれを行ったときは、打者は三振である。
- ワンストライク後からのフアウルは、打者アウトである。
- バントやブッシュバントは認められない。ワンストライク後からこれを行ったときは、打者はアウトである。

5. 走塁規程

- 走者は打者が打った後、離塁することができる。走者の離塁が早いときは、走者は離塁アウトになる。
- 盗塁は認められない。
- スライディングは禁止する。(行うと走者アウト)。走者の1塁、2塁、3塁での駆け抜けは認められる(走者は塁ベースを駆け抜けした後、進塁の意志がない場合には野手にタッチされてもアウトにならない。)

6. 試合

- 試合は原則として次の2通りとする。
- (1) 2チームが攻撃と守備に分かれ、攻撃側の全打者が打撃を完了した時点で攻守を交代し、規定の回数(イニング)を終えたとき得点の多いチームが勝者となる。残塁の走者は次回に受け継ぐ。最終回の残塁者はこの限りではない。
 - (2) 2チームが攻撃と守備に分かれ、第3アウトが成立することによって攻守を交代し、規定の回数(イニング)を終えたとき得点の多いチームが勝者となる。攻守の決定は、試合前に行われる審判員のコインのトスによる。

7. 正式試合

- 正式試合の規定回数は、左記(1)の場合、2回から4回とする。また、(2)の場合、5回から7回とする。正式試合では、大会要項の定めるところにより、試合時間制限を設けることができる。この場合、制限時間は上記の規定回数に優先する。
- 試合終了時に同点の場合には、原則として試合を延長して行う。
- 球審によって、「プレイボール」が宣告されると、試合は開始される。
- フェアボールとフアウルボールは、野球やソフトボールと同じであるが、バッターズサークルフェア地域内のライン上で野手がボールに触れたり、ボールが止まったときはフェアボールとする。
- 幼児や小学生がプレイするときは、インフィールドフライのルールは適用しない。
- 登録された選手は、1試合につき原則として最低1イニング以上プレイするか1度は打席に立たなければならない。

8. 得点

- 走者がその回終了までに、正しく1塁、2塁、3塁、本塁に触れた場合1点が記録される。

9. 審判員

- 審判員は、2人制で行う。2人は球審と塁審(1塁)に分かれる。
- 球審は、打者の正面横に、立つ。
- 塁審は、1塁手の後方、1塁フアウルライン上に、立つ。
- 球審は、3塁と本塁周辺のプレーをジャッジする。
- 塁審は、1塁と2塁周辺のプレーをジャッジする。
- 球審と塁審は、打者走者の進塁が一段落しボールが内野手か本塁手にもどったら「タイム」をかけ、次のプレーに移るように指示する。

[その他の試合ルールに関しては、日本テニスボール協会公式規則(日本協会発行)に準拠する]